

2016年7月6日

株式会社 リクルートマーケティングパートナーズ

ブライダル総研

離婚に関する調査2016

- ◆ 離婚を望んでいた割合は男性より女性の方が高く、6割を超える
- ◆ 離婚経験者^(※)と有配偶者^(※※)では、結婚スタート時の経験に違いがあり、「性格を理解してもらうこと」「家族が親しくなること」「親族や友人を知ること」「金銭感覚のすり合わせ」「価値観のすり合わせ」がポイントに。
- ◆ 離婚経験者と比較し、有配偶者は結婚式を実施している割合が高く、結婚式を通じて得られたことについても差がある

※離婚経験者：離婚経験が一度ある現在独身者 ※有配偶者：初婚同士の既婚者

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ(本社：東京都中央区 代表取締役社長 山口 文洋)が運営するブライダル総研では、離婚の実態について調査しました。ここに、調査結果の要旨をご報告いたします。

<離婚経験者の状況や理由>.....P3~5

離婚を望んでいた割合は男性よりも女性の方が高く、6割を超える

- 離婚経験者において、離婚当時、自分が離婚を望んでいた割合：男性 29.2%、女性 64.4%。

最も多い離婚理由は「価値観の違い」。男性と比較し女性は「育児の非協力」「借金」「家事の非協力」の割合が高く、差が大きい

- 離婚理由の上位5項目：「価値観の違い」「人生観の違い」「性格の不一致」「金銭感覚の違い」「夫婦の会話がない」。
- 離婚理由で女性の方が高く、男女差が大きい上位3項目：「【相手が】育児に協力的でない」「【相手の】借金」「【相手の】家事に協力的でない」。

離婚経験者は有配偶者と比較し、周囲に離婚経験者がいる割合が高い

- 周囲の離婚状況において、自分の周囲に離婚経験者がいる割合：有配偶者 57.7%、離婚経験者 72.2%。

<有配偶者の別居や離婚の可能性>.....P6

有配偶者のなかで、約5割の人が離婚を考えた経験あり

- 有配偶者において、別居を考えたことがある割合：42.9%（少し考えたことがある 26.0%／本気で考えたことがある 16.9%）。
- 有配偶者において、離婚を考えたことがある割合：47.8%（少し考えたことがある 29.6%／本気で考えたことがある 18.2%）。

<有配偶者と離婚経験者の違い>.....P7~9

結婚スタート時において、有配偶者の方が「性格を理解してもらうこと」「家族が親しくなること」「親族や友人を知ること」「金銭感覚のすり合わせ」「価値観のすり合わせ」を経験している割合が高い

- 結婚のスタート時にあったこと・深まったことにおいて、離婚経験者と比較し有配偶者の方が高い上位7項目は「自分の性格を理解してもらう」「自分と配偶者の家族が親しくなる」「相手の親族や友人を知る」「二人の金銭感覚をすり合わせる」「配偶者と自分の家族が親しくなる」「自分の親族や友人を知ってもらう」「二人の価値観をすり合わせる」。

有配偶者の方が挙式または披露宴・披露パーティを実施している割合が高い

- 挙式を実施した割合：有配偶者 87.0%、離婚経験者 69.4%。
- 披露宴・披露パーティを実施した割合：有配偶者 81.3%、離婚経験者 63.1%。

挙式において、有配偶者の方が「家族が親しくなる」「二人で何かに取り組む」「大きなお金を使う」「認められたことを知る」「価値観をすり合わせる」といった機会を得ている割合が高い

披露宴・披露パーティにおいて、有配偶者の方が「はじめを感じる」「お互いの親族や友人を知る」「家族が親しくなる」「大きなお金を使う」といった機会を得ている割合が高い

- 挙式を通じて得られた機会において、離婚経験者と比較し有配偶者の方が高い上位5項目は「配偶者と自分の家族が親しくなる」「二人で時間や労力をかけて何かに取り組む」「二人で大きなお金を使う」「周囲に二人が認められたことを知る」「二人の価値観をすり合わせる」。
- 披露宴・披露パーティを通じて得られた機会において、離婚経験者と比較し有配偶者の方が高い上位5項目は「結婚のはじめを感じる」「自分の親族や友人を知ってもらう」「配偶者と自分の家族が親しくなる」「二人で大きなお金を使う」「自分と配偶者の家族が親しくなる」「互いの家族同士が親しくなる」「相手の親族や友人を知る」。

- ◆ 出版・印刷物へデータを転載する際には、「離婚に関する調査2016(リクルートブライダル総研 調べ)」と明記いただけますようお願い申し上げます。
 - ◆ 離婚に関する調査2016の詳細は、弊社『ブライダル総研』サイト(<http://bridal-souken.net/>)より、ダウンロードいただけます。
- リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】

https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【調査概要】一次調査

【調査方法】インターネットによるアンケート調査

【調査期間】2016年3月25日（金）～29日（火）

【調査対象】全国20歳～69歳の男女

【サンプル数】20,000人

サンプル構成

	20代	30代	40代	50代	60代
男性	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
女性	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000

【調査概要】二次調査

【調査方法】インターネットによるアンケート調査

【調査期間】2016年3月25日（金）～29日（火）

【調査対象】全国20歳～69歳の有配偶者、離婚経験者

- ・有配偶者・・・本人も相手も初婚（離婚未経験者）
- ・離婚経験者・・・離婚経験1回
&10年以内に離婚
&本人も相手も初婚
&現在独身

【回収サンプル数】2,000人

A～Dを均等割り付け

- ・A：有配偶者かつ挙式、披露宴・披露パーティー・ウエディングパーティーのいずれかを実施：500件
- ・B：有配偶者かつ挙式、披露宴・披露パーティー・ウエディングパーティーのいずれも非実施：500件
- ・C：離婚経験者かつ挙式、披露宴・披露パーティー・ウエディングパーティーのいずれかを実施：500件
- ・D：離婚経験者かつ挙式、披露宴・披露パーティー・ウエディングパーティーのいずれも非実施：500件

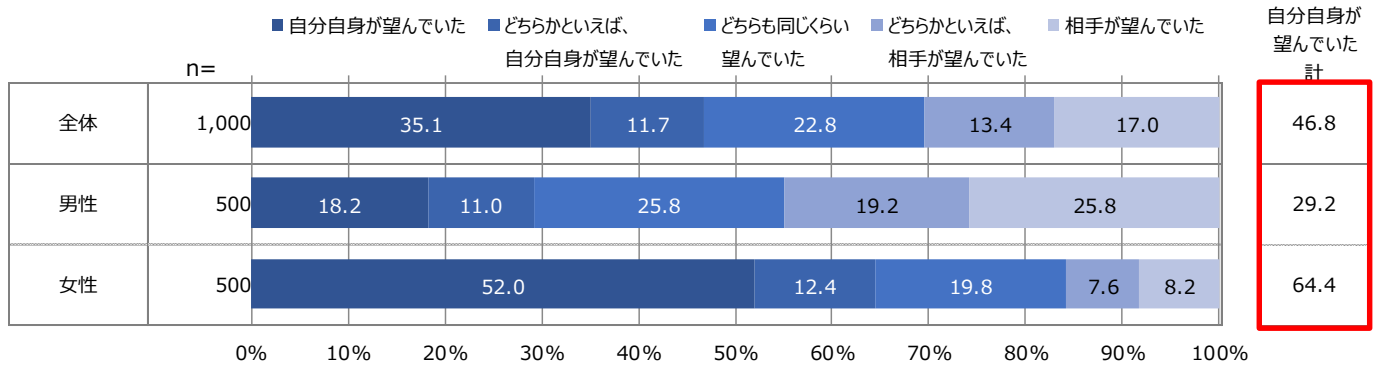
回収サンプル構成

			20代	30代	40代	50代	60代	合計
A	有配偶者	挙式、披露宴等 「実施」	男性	50	50	50	50	500
			女性	50	50	50	50	
B	有配偶者	挙式、披露宴等 「非実施」	男性	50	50	50	50	500
			女性	50	50	50	50	
C	離婚 経験者	挙式、披露宴等 「実施」	男性	10	90	50	50	500
			女性	50	50	50	50	
D	離婚 経験者	挙式、披露宴等 「非実施」	男性	16	84	55	65	500
			女性	51	52	76	55	

夫婦のどちらが離婚を望んでいたか

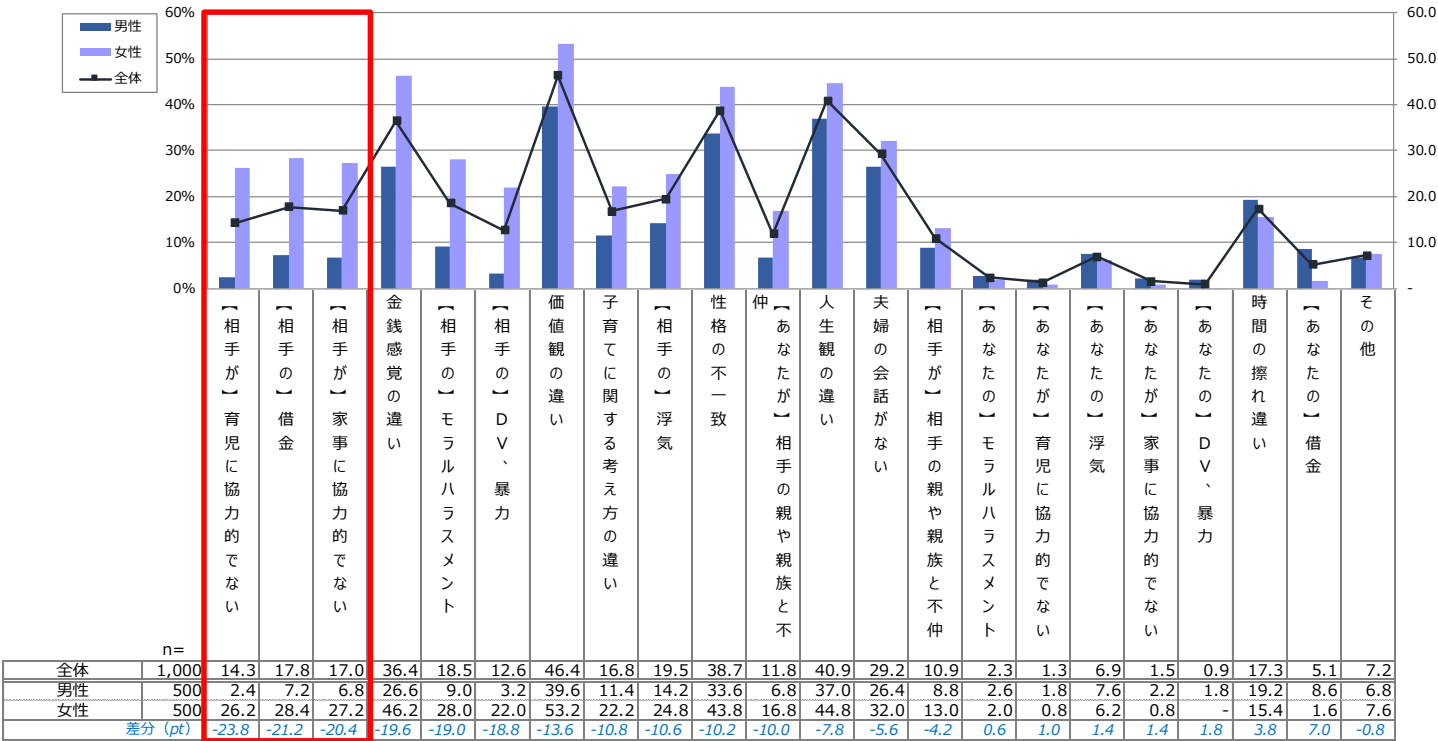
離婚したときに夫婦のどちらが離婚を望んでいたかを男女別でみると、自分自身が望んでいた割合は男性よりも女性の方が高い

■離婚当時、夫婦のどちらが離婚を望んでいたか（離婚経験者／単一回答／二次調査より）



最も多い離婚理由は「価値観の違い」。
男性と比較し女性は「育児の非協力」「借金」「家事の非協力」の割合が高く、差が大きい。

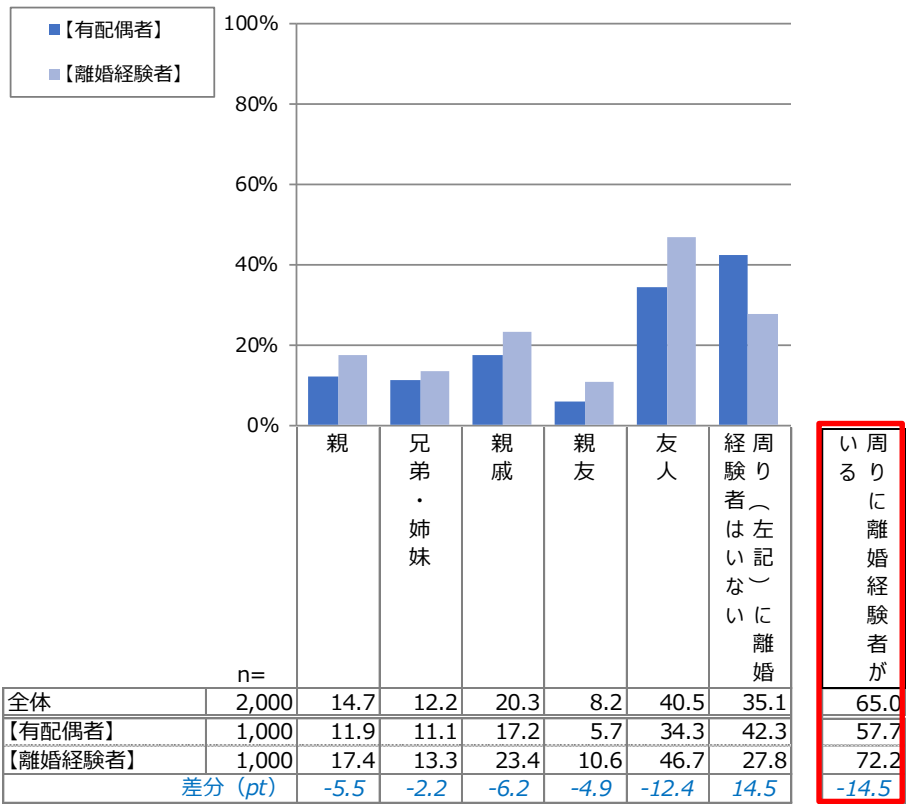
■離婚の理由（離婚経験者／複数回答／二次調査より）



※女性と男性のポイント差でソート

離婚経験者は有配偶者と比較し、周囲に離婚経験者がいる割合が高い

■自分の周囲の離婚状況（現時点における）（全体／複数回答／二次調査より）

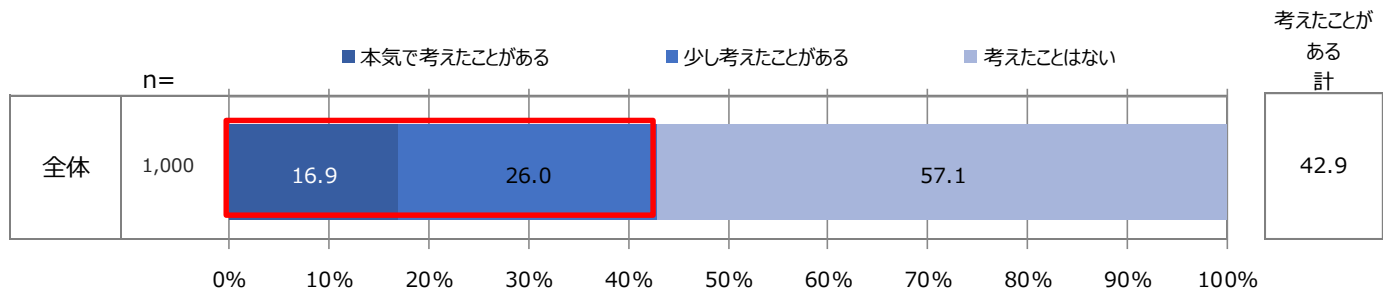


有配偶者の別居・離婚を考えたことがある割合

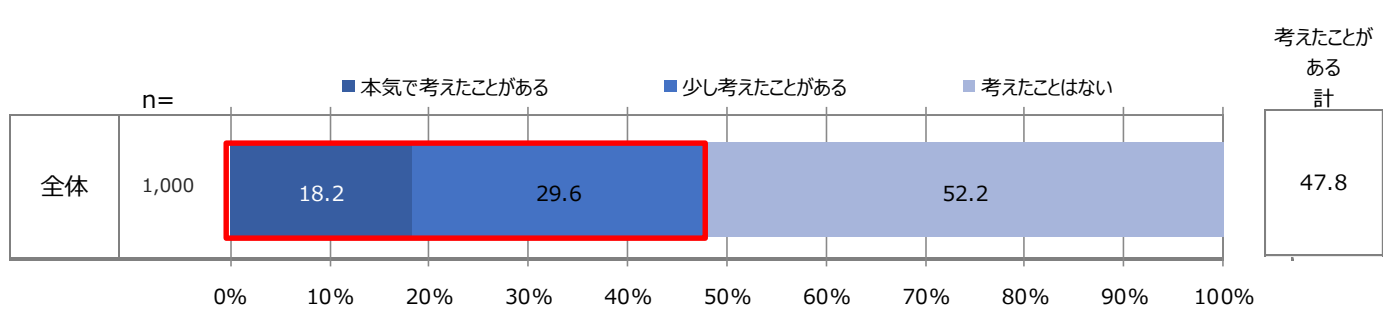
有配偶者において、離婚を考えたことがある割合は約5割

■ 別居・離婚を考えたことがある割合（有配偶者／単一回答／二次調査より）

<別居>

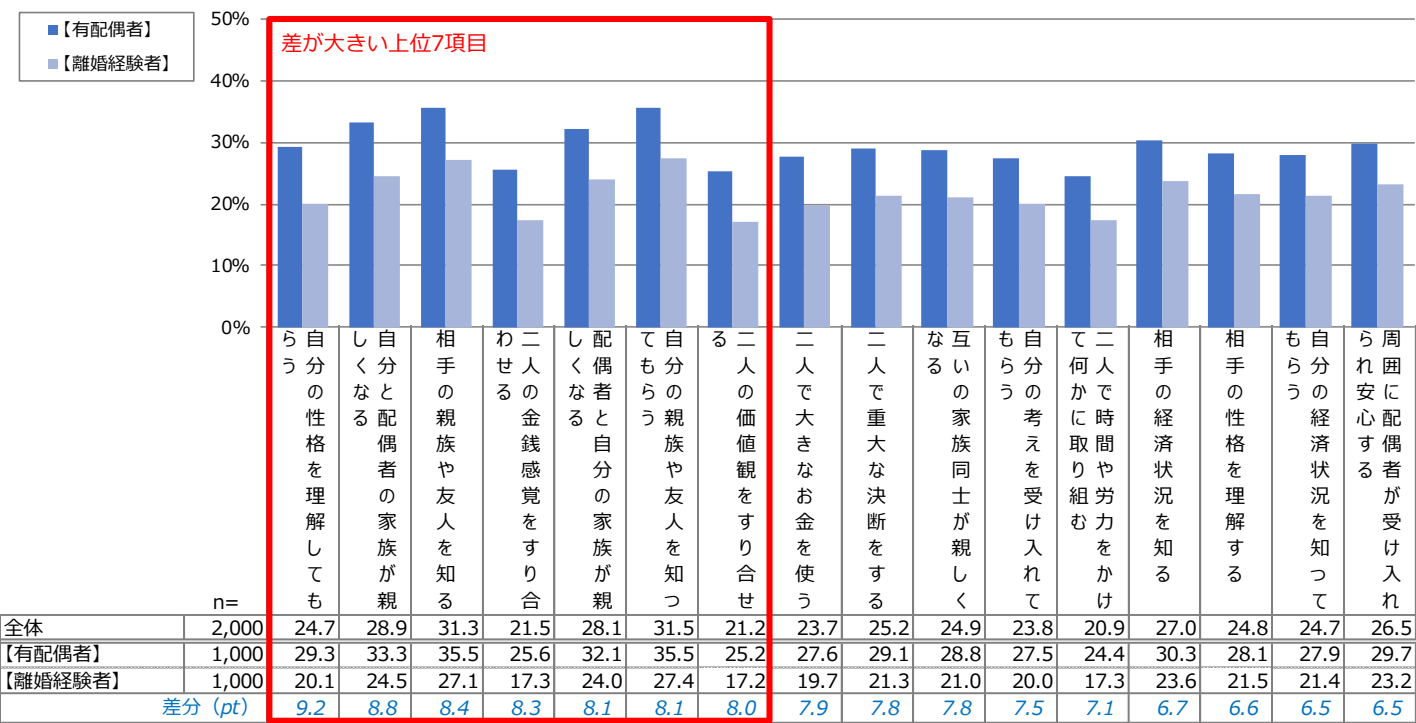


<離婚>



結婚のスタート時にあったこと・深まったことにおいて、離婚経験者と比較し有配偶者の方が高い上位7項目は「自分の性格を理解してもらう」「自分と配偶者の家族が親しくなる」「相手の親族や友人を知る」「二人の金銭感覚をすり合わせる」「配偶者と自分の家族が親しくなる」「自分の親族や友人を知ってもらう」「二人の価値観をすり合わせる」。

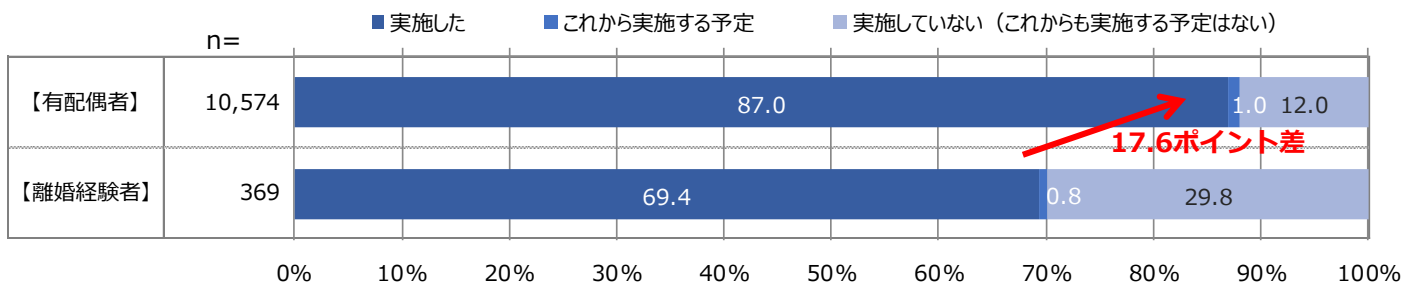
■結婚のスタート時にあったこと・深まったこと（全体／24項目中、有配偶者・離婚経験者の差が大きい上位15項目／複数回答／二次調査より）



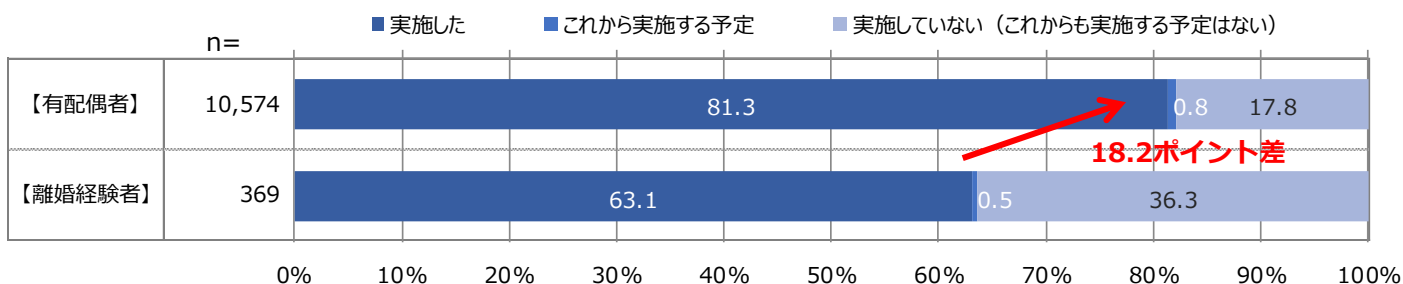
※有配偶者と離婚経験者のポイント差で降順ソート

離婚経験者と比較し、有配偶者は挙式または披露宴・披露パーティを実施している割合が高い

■ 挙式実施状況（有配偶者および離婚経験者／単一回答／一次調査より）



■ 披露宴・披露パーティ実施状況（有配偶者および離婚経験者／単一回答／一次調査より）

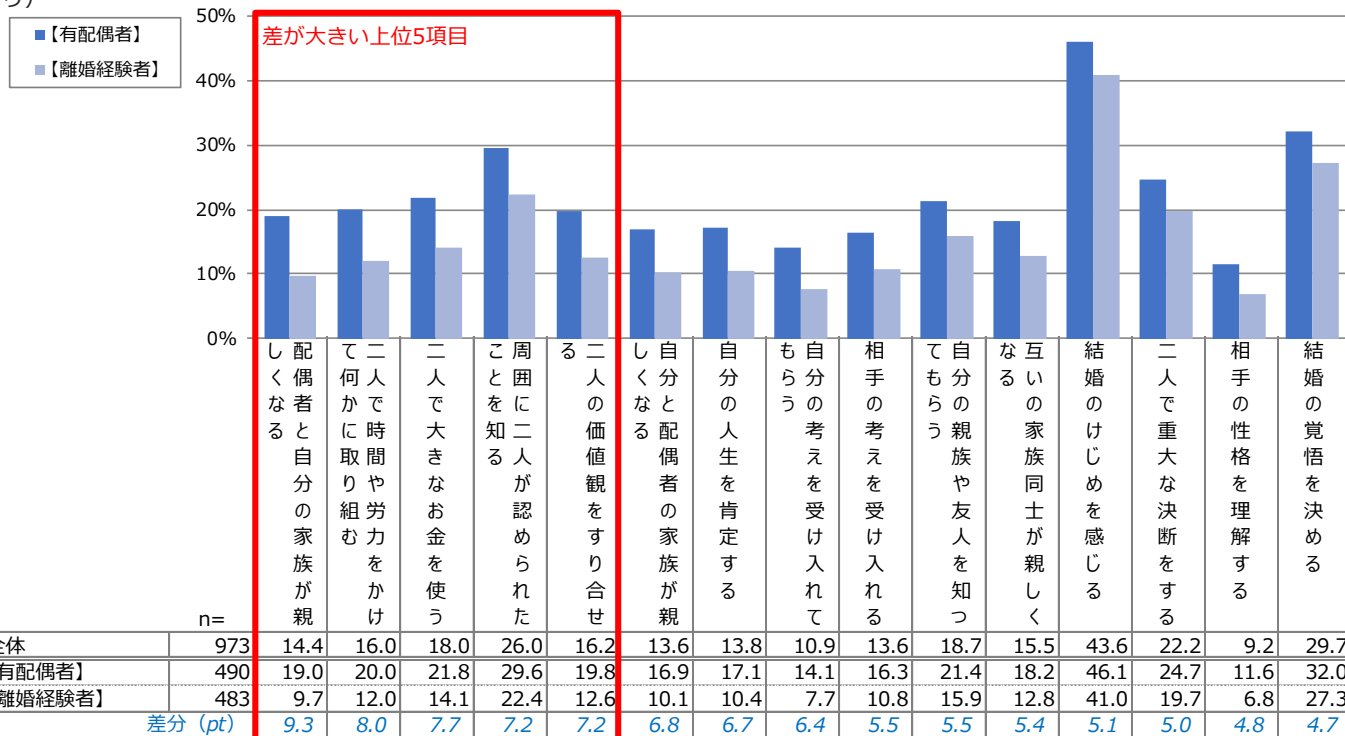


挙式、披露宴・披露パーティを通じて得られた機会(離婚経験有無別)

挙式を通じて得られた機会において、離婚経験者と比較し有配偶者の方が高い上位5項目は「配偶者と自分の家族が親しくなる」「二人で時間や労力をかけて何かに取り組む」「二人で大きなお金を使う」「周囲に二人が認められたことを知る」「二人の価値観をすり合わせる」。

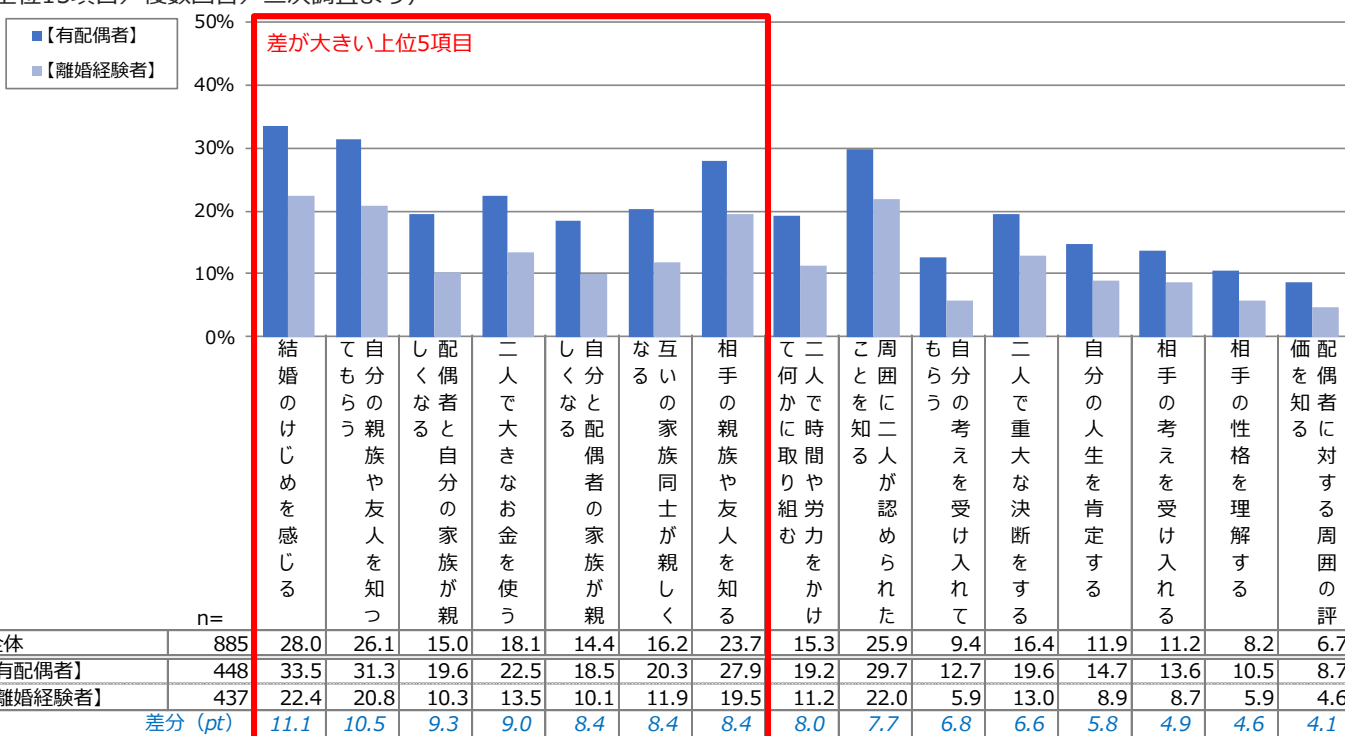
披露宴・披露パーティを通じて得られた機会において、離婚経験者と比較し有配偶者の方が高い上位5項目は「結婚のけじめを感じる」「自分の親族や友人を知ってもらう」「配偶者と自分の家族が親しくなる」「二人で大きなお金を使う」「自分と配偶者の家族が親しくなる」「互いの家族同士が親しくなる」「相手の親族や友人を知る」。

■ 挙式を通じて得られた機会 (挙式実施者/25項目中、有配偶者・離婚経験者の差が大きい上位15項目/複数回答/二次調査より)



※有配偶者と離婚経験者のポイント差で降順ソート

■ 披露宴・披露パーティを通じて得られた機会 (披露宴・披露パーティ実施者/25項目中、有配偶者・離婚経験者の差が大きい上位15項目/複数回答/二次調査より)



※有配偶者と離婚経験者のポイント差で降順ソート